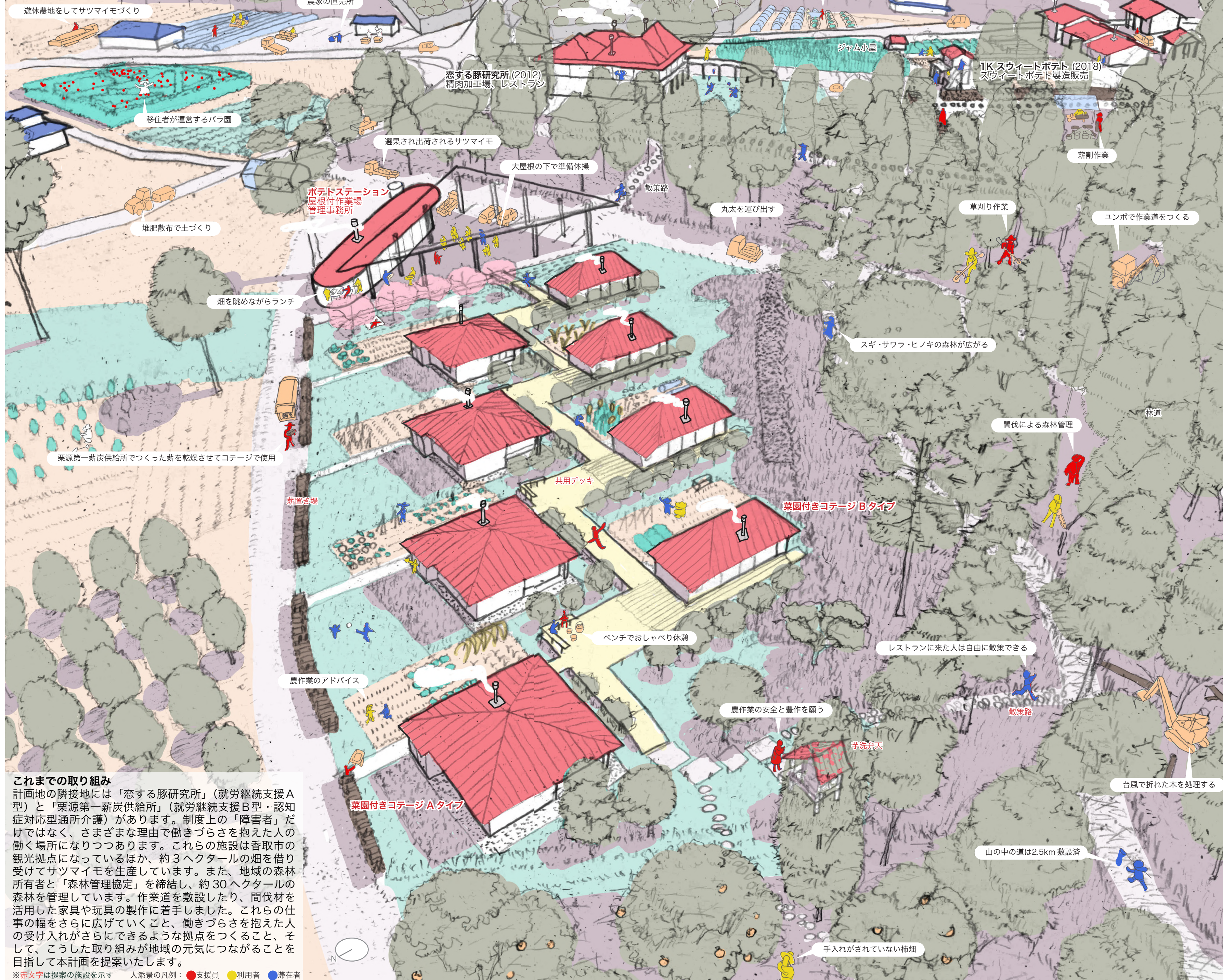


スウィートポテト・リトリート



これまでの取り組み

計画地の隣接地には「恋する豚研究所」(就労継続支援A型)と「栗源第一薪炭供給所」(就労継続支援B型・認知症対応型通所介護)があります。制度上の「障害者」だけでなく、さまざまな理由で働きづらさを抱えた人の働く場所になりつつあります。これらの施設は香取市の観光拠点になっているほか、約3ヘクタールの畑を借り受けてサツマイモを生産しています。また、地域の森林所有者と「森林管理協定」を締結し、約30ヘクタールの森林を管理しています。作業道を敷設したり、間伐材を活用した家具や玩具の製作に着手しました。これらの仕事の幅をさらに広げていくこと、働きづらさを抱えた人の受け入れがさらにできるような拠点をつくること、そして、こうした取り組みが地域の元気につながることを目指して本計画を提案いたします。

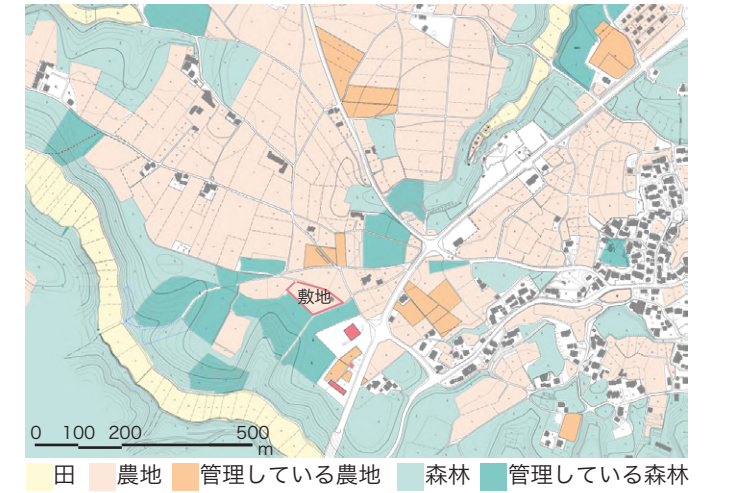
※赤字は提案の施設を示す 人添員の凡例：●支援員 ●利用者 ●滞在者

若年刑余者等の支援

少年院の新規収容者のうち53%がIQ89以下となっています。また、少年の刑法犯の教育程度は中学卒業が高校中退が約70%という現実があります。こうした若者には福祉的なアプローチが必要であり、生活を整え、就労を支援することが地域生活の継続や再犯防止にはとても重要です。本計画によって農林業や接客など多様な仕事を創ることができ、障害の特性に応じた支援が可能になります。こうした支援を充実させることで「闇バイト」に行ってしまうことを防ぎ、地域での自立した生活が可能になります。

遊休農地の増加とすむ森林の荒廃

香取市栗源地区は人口減少が急速に進んでいます。香取市には500ヘクタールを超える遊休農地があるほか、森林面積は5,000ヘクタール以上あり、5ヘクタール未満の小規模な所有者が多く、ほとんど手入れがされていない現状です。農業や森林管理は持続的にいう仕組みと技術を持った人材の育成が大切です。持続的な地域実践のために「農林福連携」は可能性ががあります。本計画はこうした取り組みの地域拠点となります。



人とお金の循環

恋する豚研究所には年間15万人の来客があるほか、120人以上のスタッフが働いています。こうした人の動きは、人口減少が進むコミュニティにおいては貴重な地域資源です。本計画により、都市からの人が、数日から中長期の滞在が可能になり、交流・循環人口の幅が広がります。滞在中に、障害のある人たちと一緒に、農業や森林作業を行ってもらうことで、地方からは、自立と自存のための「生きる技術」が、都市からは「多様性」と「お金」の循環がはじまります。本計画によって、コミュニティ経済を豊かにし地域共生社会の実現が可能になります。

具体的な仕事の内容、施設

本計画は、地域の遊休農地を活用したサツマイモ栽培の行程に沿って、日々の作業を障害のある人、刑余者を含む多様な利用者を行うポテト・ステーションと、農的な暮らしを実践する滞在者(短期・長期)のための菜園付きコテージ8棟により構成されます。利用者は熟練者から作業指導を受けながら農作業を行う傍ら、コテージの管理や菜園の作業を補助します。コテージの滞在者は、菜園での農作業を熟練者や利用者から教わるだけでなく、遊休農地での作業に参加することで、地域の農業の担い手へと育つことが期待されます。

100年の関係人口計画

農業従事者の平均年齢は68.4歳(2022年度)となっています。地域の貴重な生産と仕事のある農業を維持するには新しい仕組みづくりが求められます。本計画は地域経済圏の形成に向けた農林業と福祉を組み合わせたコモンズ型の人材育成を目指します。サツマイモ栽培や林作業に主体的に関わるコアメンバーとしての熟練者、彼らから教わりながら仕事をし、スキルを身につけていくオブザーバーとしての利用者、農業体験を楽しみたいウィジターとしての滞在者というように、農地やサツマイモ、森林という資源に対するアクセシビリティは人それぞれです。しかしこれは固定的なものではなく、農業体験を通して興味を深めた滞在者がウィジターからオブザーバーに、経験を重ねた利用者がオブザーバーからコアメンバーに、あるいは逆にコアメンバーからオブザーバーに引いて少し休むなど、おおよそ6年の周期で関係がうつり変わっていくような柔軟な働き方を想定しています。人々の交流と成長を支援する場作りをきっかけに、都市と農村の壁を崩し、地域の農林業に主体的に関わるコアメンバーを増やしていきます。

